

編集にあたって

本書の著者・法政大学永瀬克己教授は、40年にわたって工学部建築学科（後にデザイン工学部建築学科）に奉職し、多くの優秀な人材を育成するとともに研究活動に多大な業績を残してきました。特に長年取り組んだ沖縄の研究は、深い洞察のもとに、広く沖縄・奄美を含めた南西諸島全域を対象にして、民家集落の緻密な調査研究を続けたものでした。その成果は地元の研究者だけではなく全国の研究者にとっても、貴重な研究資料として活用されています。さらに、竹富島や渡名喜島の重要伝統的建造物群保存地区の選定に結びつきました。また、本島小湾の復原に関する一連の調査は、膨大な報告書となって出版されて“沖縄戦と集落の歴史”の貴重な史実として残されました。これらの成果は全国の主要図書館に納められて、広く人々に供されています。

著者の業績は、跋文に収められないほど多量であり、しかもまだ沖縄の研究を続けている途中でしたので、業績はますます積み重なるはずでした。しかし、2013年12月30日、突然の病で急逝されてしまいます。まだ68歳という現役の教授の死を誰が予想できたでしょうか。前日まで元気に仕事をこなしていたご自身も、気づかなかつたに違いありません。誰もが研究途上の死に対する無念さを思いはかるばかりでした。しかし、時が経ち少し心が静まるにつれて、好きな研究や創作を亡くなるまで続けてこられて満足に思っておられたのではないかという思いに変わってきました。いや、そういう思いに変えなければいけないと思いました。長く厚誼を交わした仲間たちはいつまでも沈んでいてよいはずはありません。

著者の人生は、多彩な花に満ちた豊かな道のりでもありました。教育者で研究者として咲かせた花だけではありません。建築家としての花、デザインや絵画の花、陶芸の花、発明家としての花も咲いているのです。市民活動で咲いた花も残っています。そしてたくさんの花の中に、もう一つ美しく咲いているのは、日本民俗建築学会理事・事務局長としての業績を実らせた大輪の花でした。そうして、多才な能力をもって多方面で活躍して歩んだ人生の航跡を、振り返って照らしてみる灯を掲げ一冊の本にまとめて残したい、という思いが生まれたのも自然の流れでもありました。

本書の編集は、こうした多くの思いに応える本の制作を基本方針として準備を始めまし

た。制作にあたっては多くの方から資料や作品の提供をいただきましたので、それらをどのように構成するかを考え、もし出版するとしたなら著者はどう考えるかを常に求めて編集を進めました。著者の人間性豊かな人生を、この一冊の中に少しでも組み入れることができたのは、多くの方々の協力とたくさんの花々が残っていたからだと思います。

急逝を悼^{いた}み生前の業績をたたえて、法政大学からは名誉教授（名誉フェロー）の称号が授与され、日本民俗建築学会からは功績に対して学会賞「佐藤重夫賞」が贈賞されました。これらの名誉に添えて、本書『沖縄・よみがえる民家と集落』を著者の霊前に供えらるとともに、ここに本書の刊行によって広くそして時代を経て本書を手にしていただけますことを感謝申し上げる次第です。

永瀬克己著『沖縄・よみがえる民家と集落』編集担当
宮崎勝弘・古川修文・津山正幹



永瀬克己

沖縄・よみがえる民家と集落

2015年8月1日 初版発行

著者：永瀬克己

株式会社 三協社

〒164-0011 東京都中野区中央4-8-9

電話 03-3383-7281

編集：宮崎勝弘・古川修文・津山正幹